

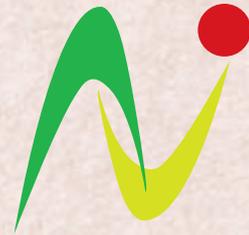
# なかがわ

広報

2017.11



町のイメージキャラクター  
「なかちゃん」



No.146

- 秋季全国火災予防運動 2
- 選挙結果のお知らせ 4
- 町の財政状況を公表します 5
- 認定こども園うんどうかい 7
- 氏家税務署からのお知らせ 10



小川小学校



馬頭東小学校



馬頭小学校



馬頭西小学校

第12回 南那須地区音楽祭



第146回

### 秋季特別展

## 大佛次郎生誕120年記念「大佛次郎と501匹のねこ」

作家、大佛次郎の遺品には、多くの浮世絵が含まれています。この浮世絵は、画家、木村莊八の形見として大佛次郎に贈られたものです。

木村莊八は、「霧笛」や「幻燈」など、大佛次郎の小説に情緒あふれる挿絵を描きました。木村莊八も大の猫好きで、二人は顔を合わせるとお互いに飼っている猫の数を報告し合っていたとい

います。その浮世絵コレクションの中に、猫の浮世絵の傑作とされる「其まゝ地口 猫飼好五十三疋」が含まれています。

「猫飼好五十三疋」を口に出して読んでみると、なんだか聞いたことがあるような響きだと思いませんか？そうです。実は、これは「東海道五十三次」のもじりになっているのです。

三枚続きの画面にたくさんの猫が描かれているこの作品は、猫好きで知られる幕末の浮世絵師、歌川国芳によって制作されました。東海道の宿場名とともにその「地口」、今でいう「ギャグ」が添えられていて、そのギャグに合わせた猫の姿が描かれています。

たとえば、「日本橋」は「二本だし」。ダシをとる鯉節の

束から二本引っ張り出し、それをかじっている猫が描かれています。静岡県の「藤枝」では、ねずみ取りの下手なぶち猫が、ねずみたちからかわれている姿が描かれ、「ぶちへた」という言葉が添えられています。

なかには無理やりこじつけたような言葉もあり、その駄洒落のおかしさや、愛嬌のある猫の仕草や表情に思わずくすりと笑ってしまいます。大佛次郎もこの浮世絵をにやにやしな

がら眺めていたに違いありません。展覧会では作品とともに、各宿場の「地口」を読み解いたパネルを展示しています。猫好きの国芳の遊び心が詰まった名品をぜひ展覧会でご覧下さい。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井裕子

【会期】 後期 ～11月26日(日)

【開館時間】 午前9時30分～午後5時  
(ただし入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日

【入館料】 大人 700円(630円)  
高・大学生 400円(360円)

※( )は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方とその付き添い1名は半額



歌川国芳画 「其まゝ地口 猫飼好五十三疋」



## 平成28年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品

### 夕焼け賞「冬の華」

撮影者：齊藤 英光さん(大那地)

撮影地：矢又

